

事例 16 中学校のOJT実践事例

経験の浅い教員の授業づくりを支援する

【社会科の先輩教員として】

一般的に、非常勤講師は研修等の機会が少なく、手探りで授業づくりをしている場合が多い。経験が浅い講師ならば、なおさら自身の指導について不安を抱えていることだろう。そんな折、管理職から「経験の浅い教員に関わり、授業づくりを支援してほしい」と声を掛けられた。

そこで、大学を卒業して間もない非常勤講師と一緒に、社会科の授業づくりを行った。

〈取組の内容〉

○授業を参観して、一緒に振り返りを行う

まずは、非常勤講師の授業を参観して、放課後に振り返りを行った。授業に慣れていない非常勤講師は、生徒の反応を確認する余裕がなく、講義形式の授業になってしまうことが多かった。そこで、生徒の学びに向かう姿がどうだったかに焦点を当てて、振り返りを行った。生徒の反応を意識しながら授業を進めることの大切さを伝えたところ、生徒の学びの姿に応じた関わりや声掛けが増えた。

○ベテラン教員の授業と一緒に参観する

社会科のベテラン教員の授業を、非常勤講師と一緒に参観させてもらった。ベテラン教員は、実物教材や地域教材などを活用しながら、生徒の学習意欲を高める工夫を行っていた。非常勤講師は、ベテラン教員の力量や経験から学んだもののうち、特に、教材の工夫や学習意欲の高め方について参考にしていった。

○若手教員同士をつなぐ

経験年数の近い2年目の社会科教員が研究授業を行うことになったので、授業づくりを手伝うことを勧めた。立場の近い教員と関わることで、相談したり、学んだりするよい機会となった。特に、2年目の教員が対話的な学習を取り入れていることがよい刺激になり、非常勤講師も授業改善を意識するようになった。2年目の教員と一緒に授業づくりを考えることで、学び合いながら成長することができた。

これが成功の鍵！

①一緒に行う

教科部会での関わりだけでなく、授業づくりや授業参観などを一緒に行うことで関係性が深まり、課題や悩みを把握しやすくなりました。

③教員同士が交流しやすい場面をつくる

日常的に声掛けをすることで、相談しやすい関係になることを意識しました。

また、研究授業では若手教員同士をつないで、学び合う場を設定しました。

【非常勤講師の声】

教科書の内容を生徒に理解してもらうために、つい知識重視の一方向的に説明する授業になってしまいました。

でも、多くの先輩教員との関わりを通して、授業づくりのヒントをたくさんいただくことができました。特に、立場の近い先輩が、一緒に悩みながら考えてくれるのが、とてもありがたかったです。

【先輩教員の声】

はじめのうちは、私が経験してきたことをいろいろ伝えようとしていましたが、「教える」関係よりも「共に学ぶ」関係の方がよいことに気が付きました。一緒に悩んだり、相談に乗ったりすることで、お互いのことを理解し合い、一緒に成長することができました。

相手に寄り添うような、距離の近い関係を意識して関わりました。



非常勤講師が実物教材を授業に取り入れている様子

〈取組の成果〉

- ・様々な立場の教員との交流を通して授業づくりのヒントを学んでいくことで、非常勤講師の授業に変容が見られた。
- ・一方向的な声掛けでなく、共に行動しながら話を聞くことで、困り感を明確に把握することができ、支援することができた。先輩教員も関わりの中で、教科指導についてさらに深めることができた。
- ・若手の教員同士で協働できる場を設けることで、互いに相談したり協力したりして、刺激し合い、主体的に学びながら成長していく姿（OJL：On the Job Learning）が見られるようになった。